

阿 蘇 山

1 火山活動度レベル

火山活動度レベルは 2 (やや活発な火山活動)でした。

2 概 況

中岳第一火口の状況は、湯だまりの表面温度が 70 以上で経過し、小規模な土砂噴出が発生するなど、火山活動はやや活発な状態となっています。火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

3 噴煙活動の状況(図 1)

・噴煙活動に特段の変化はなく、噴煙は白色・ごく少量で高さは概ね 100m で推移しました(最高は 300m)。

4 地震・微動活動の状況(図 1 ~ 3)

- ・火山性地震の月回数は 143 回(4 月: 241 回)と減少しました。
- ・火山性地震の震源は、主に中岳第一火口付近のごく浅いところに求まりました。
- ・孤立型微動の月回数は 1,080 回(4 月: 1,237 回)とやや減少しました。
- ・火山性連続微動の振幅は小さな状態で経過しました。

5 火口や噴気地帯の状況(図 3、図 4)

- ・中岳第一火口の湯だまりの表面温度は、70 を超える高い状態が続き、現地観測での最高温度は 76 (31 日)でした。湯だまりの色は緑色でした。
- ・湯だまりの南西側で高さ約 1 m の土砂噴出を数ヶ所で観測しました。
- ・31 日に陸上自衛隊第 8 師団第 8 飛行隊の協力により実施した上空からの観測では、中岳第一火口以外に熱異常は認められませんでした。

(温度測定は、赤外放射温度計による)

6 地殻変動の状況(図 5、図 6)

GPS による地殻変動の連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

7 地磁気全磁力の状況(図 7、図 8)

気象庁地磁気観測所による全磁力連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

資料作成に当たっては、気象庁のデータその他、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所、阿蘇火山博物館のデータを使用しています。また、地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号: 平 17 総使、第 503 号)。

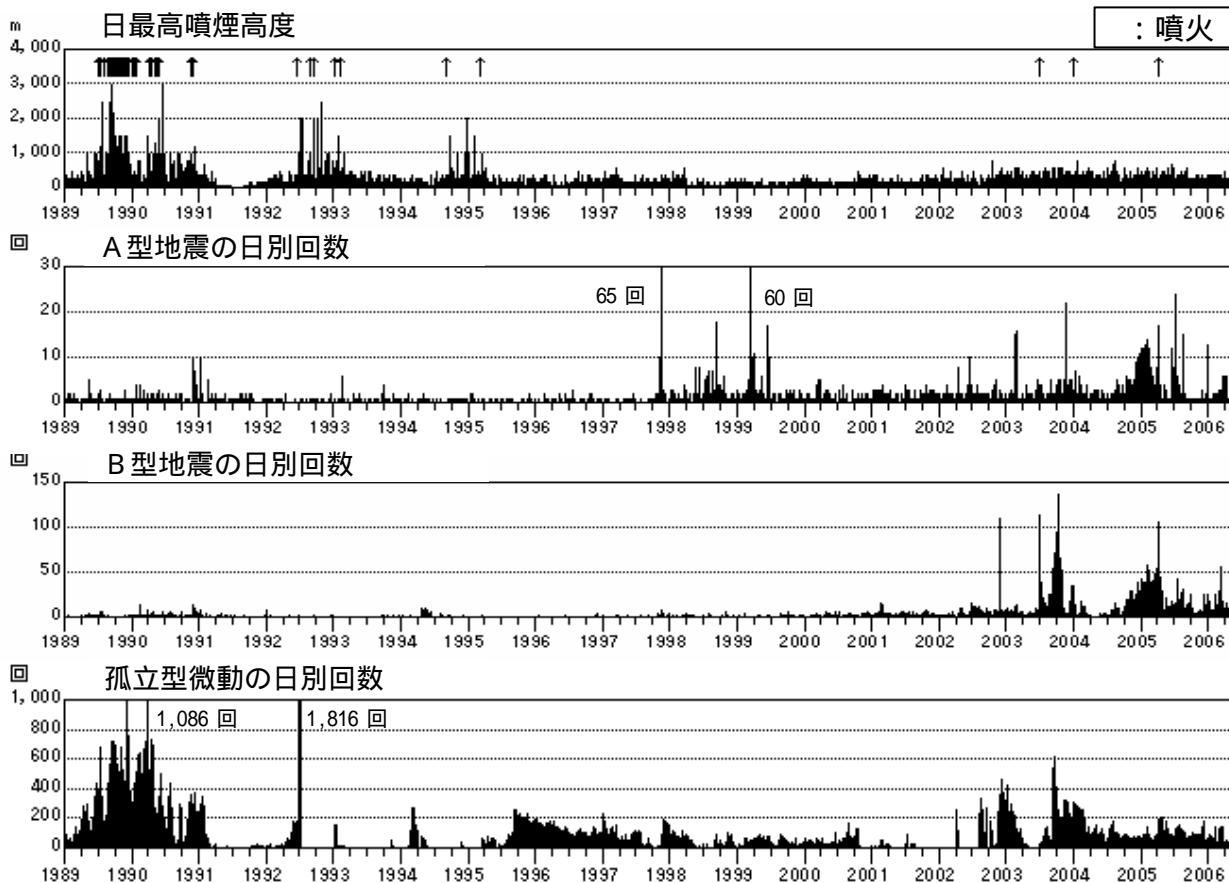


図1 火山活動経過図(1989年1月1日～2006年5月31日)
 噴煙の状況に変化は認められず、高さの最高は300mでした。
 火山性地震および孤立型微動の発生回数は、4月に比べ減少しました。

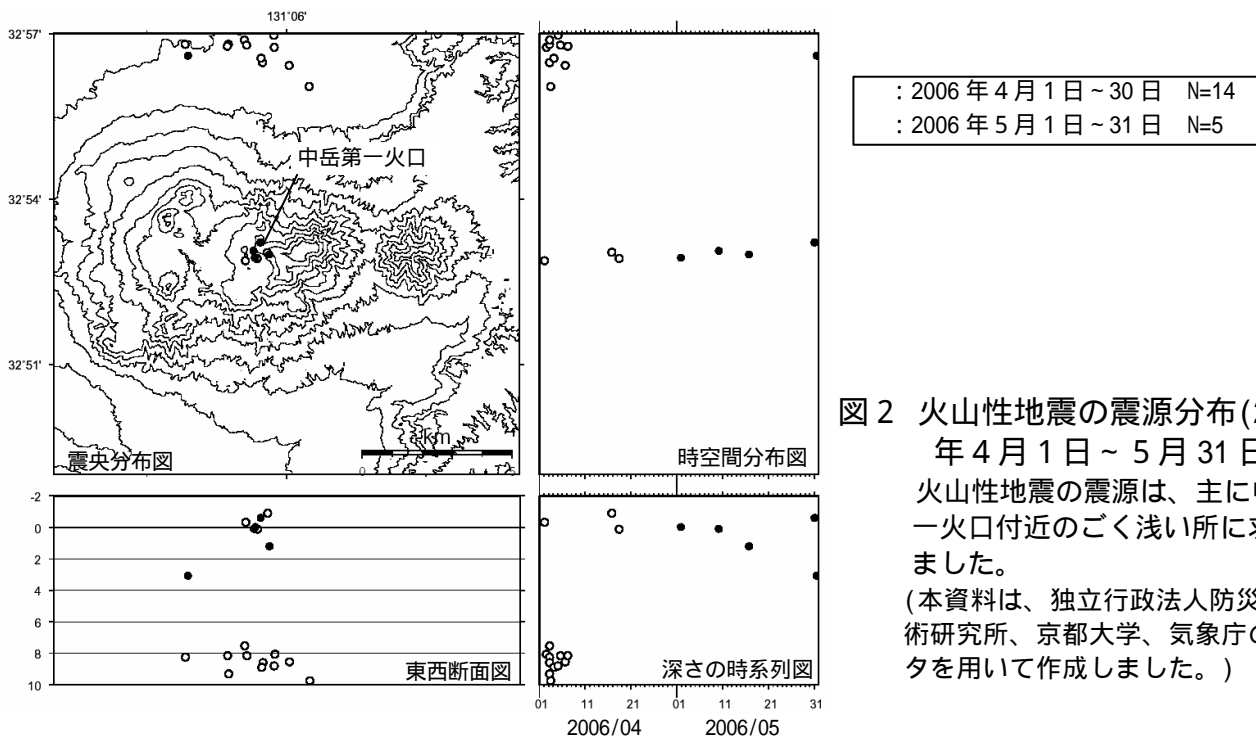


図2 火山性地震の震源分布(2006年4月1日～5月31日)
 火山性地震の震源は、主に中岳第一火口付近のごく浅い所に求まりました。
 (本資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、京都大学、気象庁のデータを用いて作成しました。)

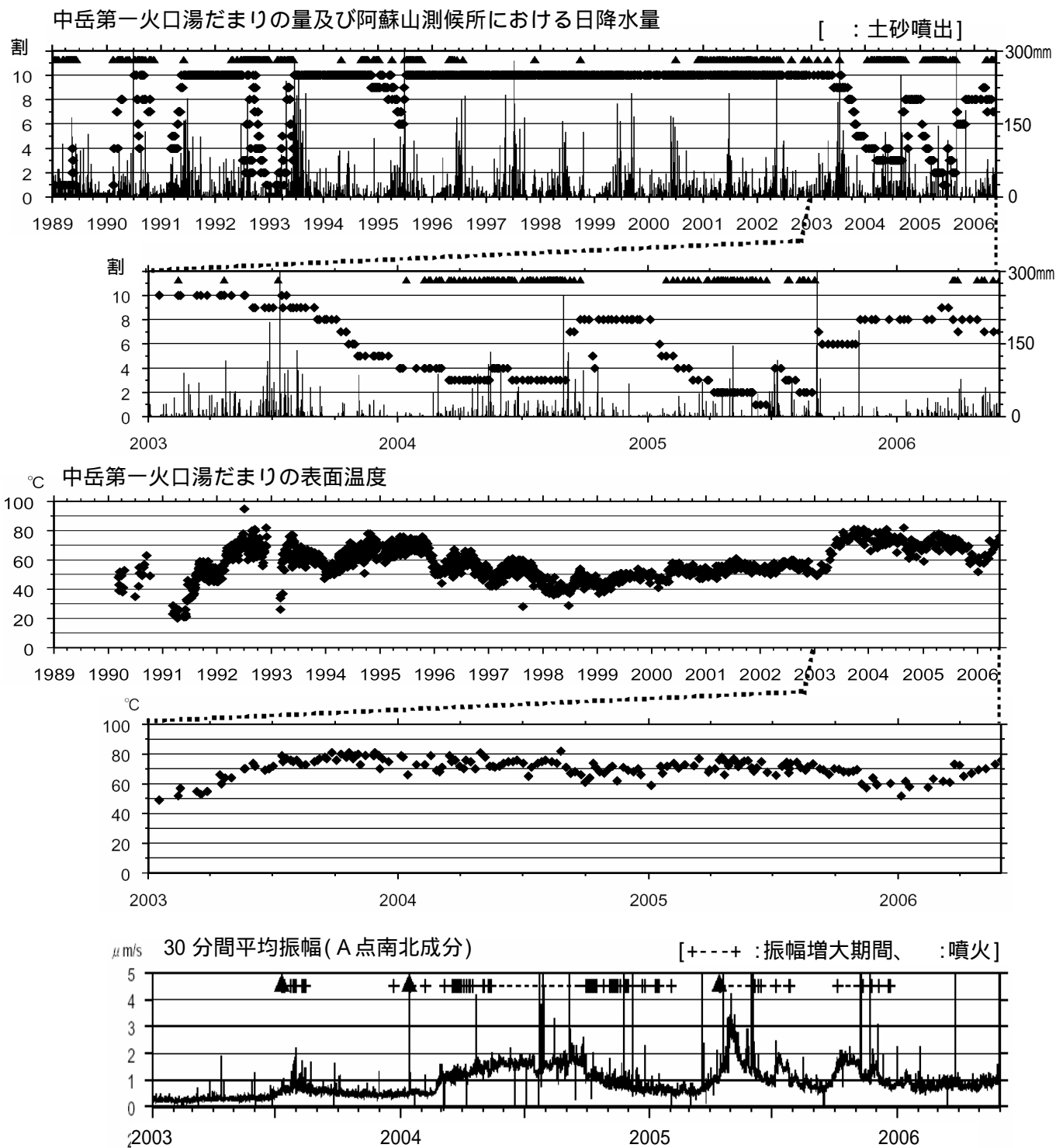
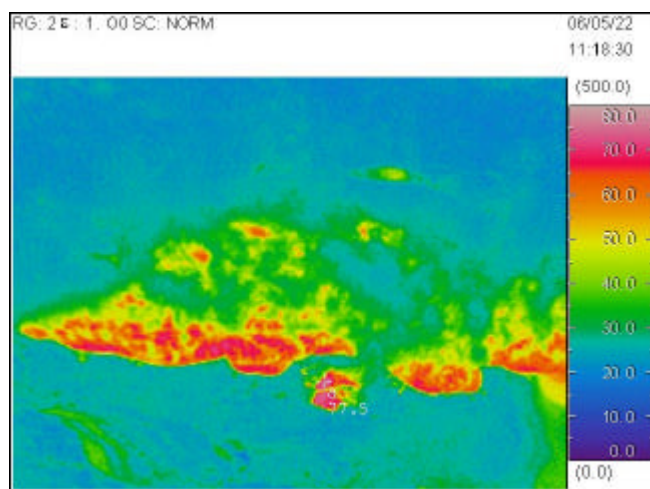
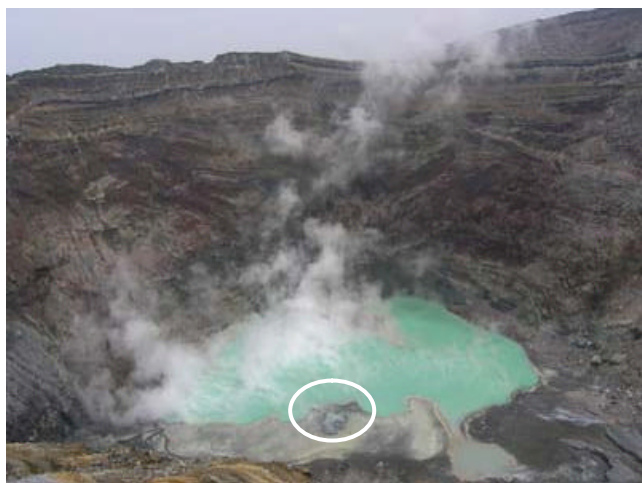
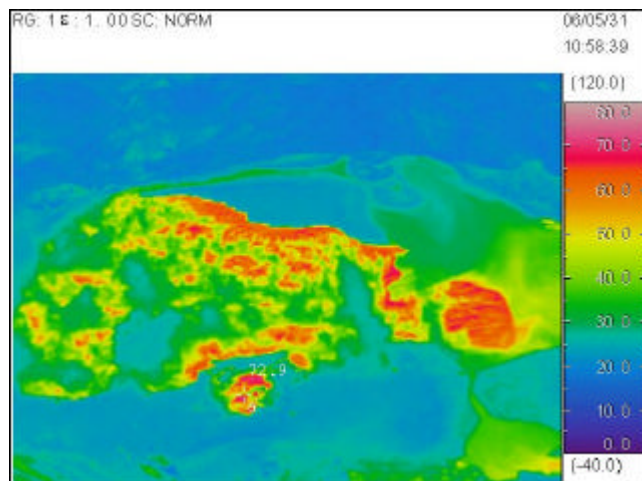


図3 火山活動経過図(1989年1月1日~2006年5月31日)

湯だまり量は約7割の状態が続いています。
 湯だまりの表面温度は31日に76を観測するなど、高い状態で推移しました。
 湯だまり南西側で高さ約1mの土砂噴出を数ヶ所で観測しました。
 火山性連続微動の振幅は小さい状態が5月も継続しました。



2006 年 5 月 22 日撮影。湯だまり量約 7 割、緑色。湯だまり南西部(写真白丸)で高さ約 1 m の土砂噴出有を観測しました。熱画像では高温部分を観測しました(赤い部分)。



2006 年 5 月 31 日撮影。湯だまり量約 7 割、緑色。湯だまり南西部(写真白丸)で高さ約 1 m の土砂噴出有を観測しました。熱画像では高温部分を観測しました(赤い部分)。

図 4 中岳第一火口の状況

湯だまり量は約 7 割でした。
湯だまり南西部(写真白丸)で高さ約 1 m の土砂噴出を数ヶ所で観測しました。
湯だまりの色は緑色でした。

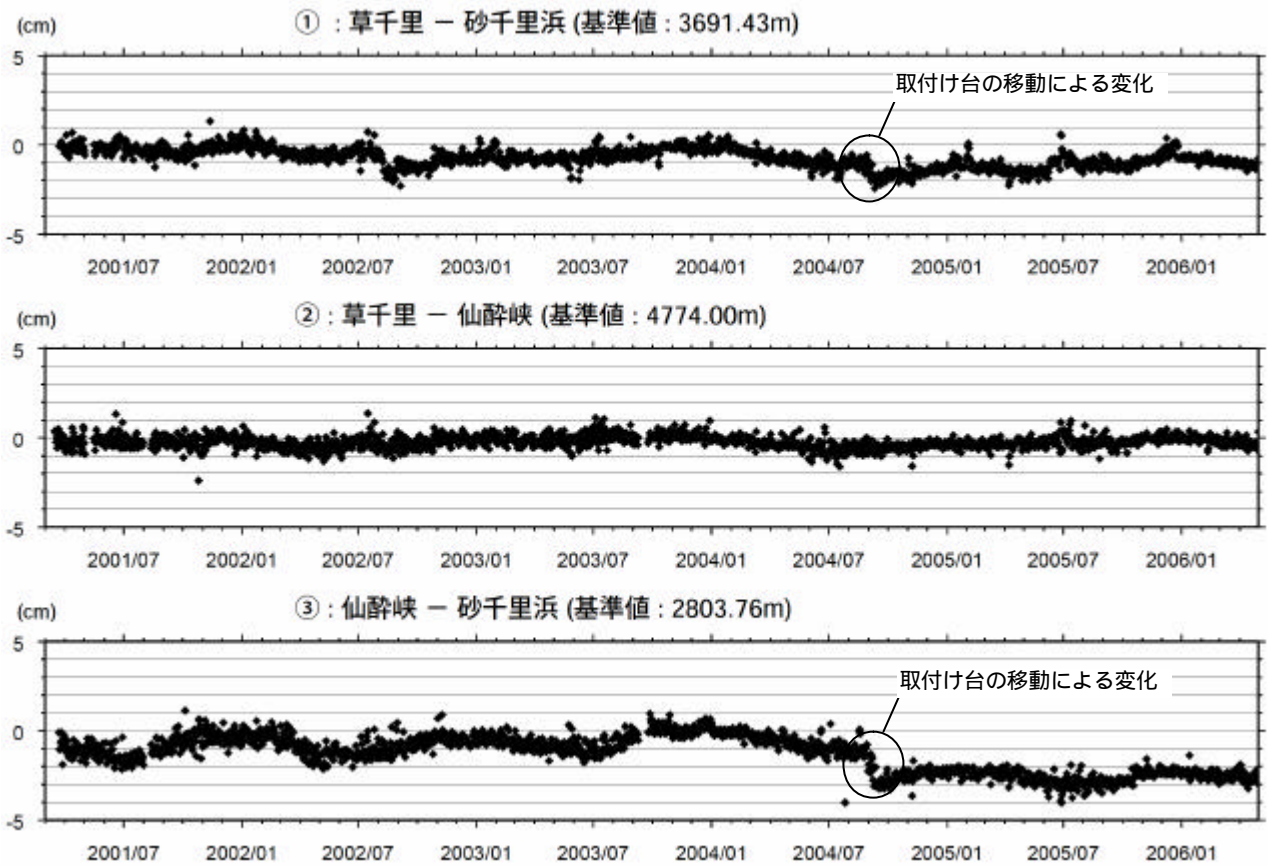


図5 GPSによる基線長変化(2001年3月15日~2006年5月31日)

基線の番号は図6の ~ に対応しています。

各観測点間の基線長には、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

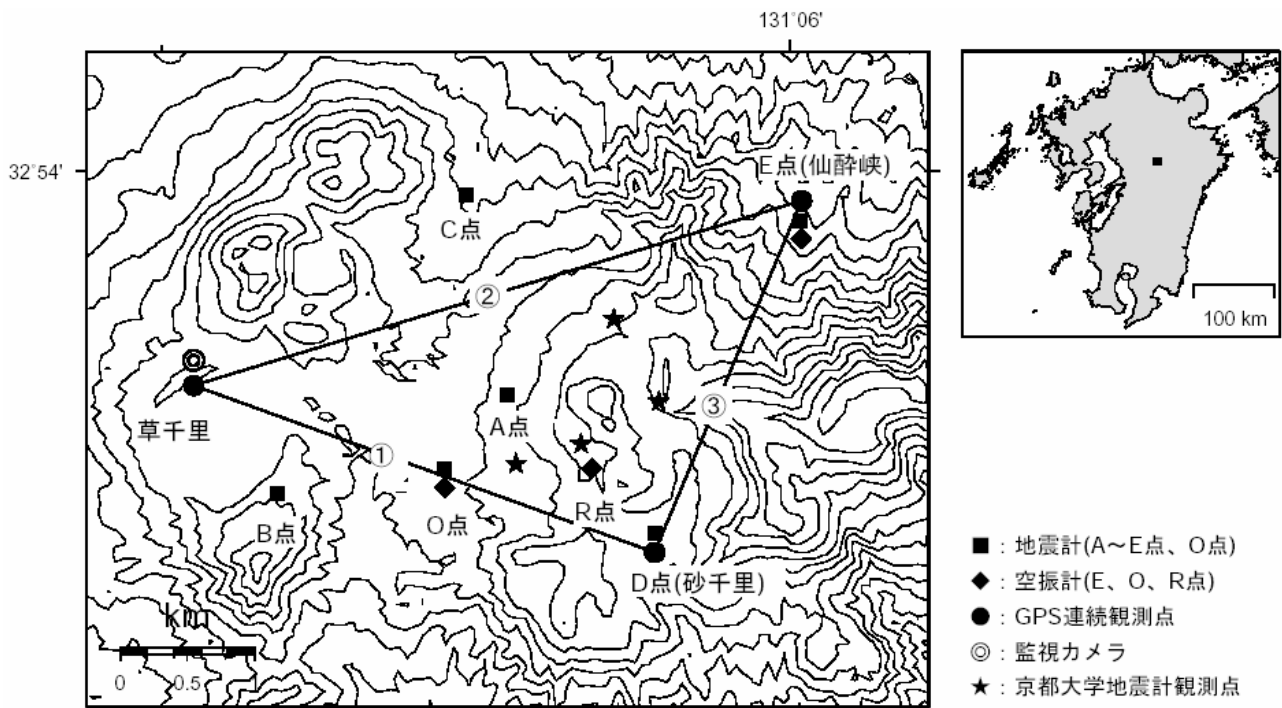


図 6 観測点位置図

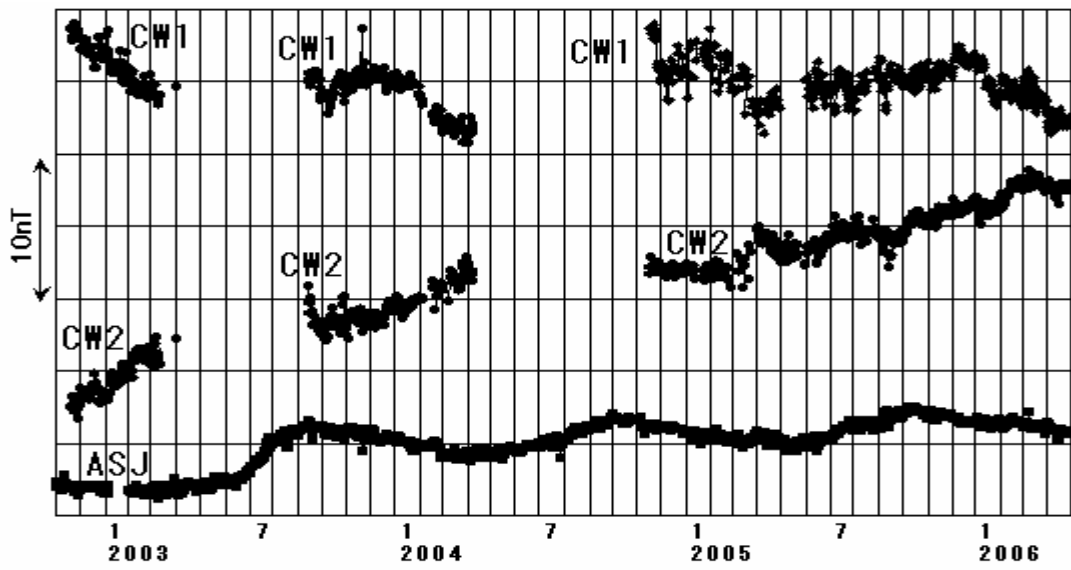


図 7 全磁力連続観測の結果 (2002 年 11 月 ~ 2006 年 5 月)

■ 火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

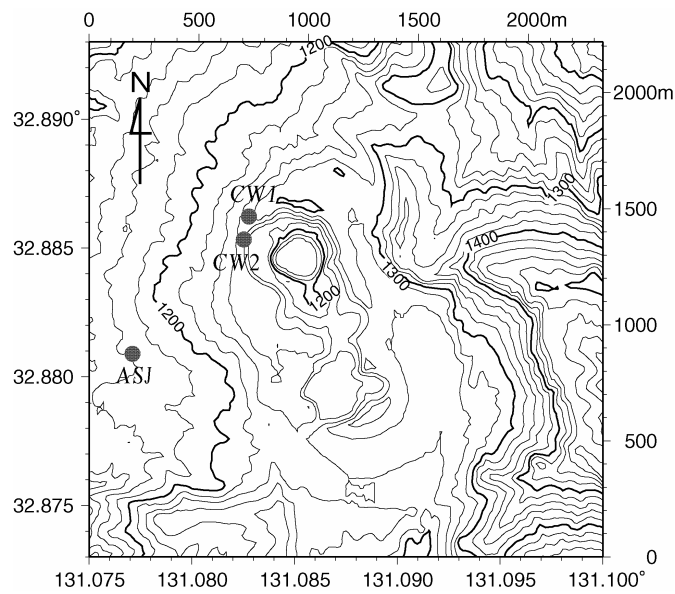


図 8 全磁力連続観測点配置図